『個』が光るイノベーションの実現にむけて
～人・企業・地域のあらたな創造～

日本商工会議所
会頭 岡村　正

平成二十年の新春を迎え、謹んでお慶び申しあげます。

『個』の輝きが 日本経済の活力向上に

わが国経済は、全体としては堅調に推移しており、大変喜ばしく思っております。しかし、消費は依然として弱く、先行きに対する不安材料も少なくありません。また、地域経済や中小企業においては、いまだに景気回復を実感できないところが多く、地域格差も目立ってきているのが現実であります。

私は、先の会頭就任にあたり、「『個』が光るイノベーション」をスローガンに掲げました。私の提唱するイノベーションとは、技術革新という狭義の意味ではなく、経営手法や行政のあり方を含め広く経済社会全般に通じる改革であり、言い換えれば「勇気ある挑戦」であります。企業とそこに働く社員、そして地域が自らの特性を活かしながら、持てる力を十分に発揮して、絶え間なくイノベーションに挑戦していく気概がいま求められていると思います。個別の企業・地域によって抱えている課題は異なりますが、それを乗り越えて目標を達成したときにこそ、企業も地域も輝くことができ、自由で活力にあふれた経済社会が構築されると確信しております。

勇気ある挑戦を応援

二十一世紀の経済社会では、個人の持つ価値観やニーズの多様化、人・物・サービスの国際移動の活発化などにみられるように、環境変化が激しくかつ急速であり、事業形態のあり方も大きく変化を迫られております。さらに、デジタル化、ネットワーク化の時代の潮流にしっかりと対応しなければ、今日の企業経営は成立しないといっても過言ではありません。こうした変化する時代に対応するには、イノベーションが不可欠です。わが国企業数の九十九・七%、従業員数の七割を占める中小企業が、イノベーションを起こし、日々の経営を革新し、経営の現場を改善することが、地域全体の活性化に繋がります。当然ながら、個々の勇気ある挑戦が実現するよう、企業や地域を支援する立場にある商工会議所においても、きめ細かく、イノベーションに取り組まなければなりません。

全国の声を提言、企業と社会をむすぶ

商工会議所は、あらゆる規模・業種を通じた会員で構成され、そうした様々な会員から寄せられる多様で多面的な意見や要望等を、常に個々の会員の視点に立ってくみ上げることにより、地域に密着した柔軟な調整力を持った唯一無二の「地域総合経済団体」としての役割を担ってきました。

商工会議所の創立者である渋沢栄一の思いは「商工業者の声を集約し社会に訴える、そして企業と社会をむすぶ」。これが創立以来一貫した商工会議所の使命であり、また私が常日頃、そして日々新たに心に念じていることでもあります。現在、まちづくりや地方幹線道路等の整備促進、事業承継問題など、商工会議所が取り組んでいる政策課題は多岐にわたっております。今後も、全国の商工会議所の力を結集して、国や自治体が取り組むべき施策を積極的に提言してまいります。

本年は、全国の商工会議所・会員それぞれが、独自の強みを存分に発揮し、「個が光る」活動をわが国のいたるところで展開していくスタートの年であると思っています。このため、商工会議所は常に先頭に立ち、そして中心となってこの目標の実現に全力を尽くしてまいります。皆様の一層のご支援とご協力を心からお願い申しあげます。

ブランドに着目した誇り輝く〝とちぎ〟づくり

栃木県知事
福田富一

商工会議所会員の皆様、あけましておめでとうございます。

早いもので、私が知事に就任してから三年余が経過し、任期の仕上げの年を迎えることとなりました。この間、子どもに対する医療費助成制度の拡充を始め、市町村と住民が協働してまちづくりに取り組む「わがまち自慢推進事業」の推進などの各種施策を市町村と連携して進めることができました。

また、昨年は、県民の皆様をはじめ団体、企業等の御理解と御協力のもと、県民が一体となって結婚や子育てを支援する「とちぎ未来クラブ」を設立することができました。

今年は、新しい県庁舎のもとで、栃木県の新たな一歩を踏み出すこととなりますが、職員一同初心に返り、全力を挙げて県政運営に取り組んで参る決意を新たにしたところであります。

私は、本県が今後とも活力を維持し発展していくため、三年目を迎えます総合計画「とちぎ元気プラン」を着実に推進することはもとより、昨年九月に策定した「平成二十年度政策経営基本方針」に基づき、「地震等災害への対応」、「地域医療の確保」、「県民の健康づくりの推進」、「看護する家族等への支援」といった緊要な課題に特に力を入れて取り組むなど、事業の選択と集中を図るとともに、更なる行財政改革を推進することにより、県民益の最大化に努めて参ります。

さらに、新年度からは「団塊の世代に着目した〝とちぎ〟の元気づくり」に加え、「ブランドに着目した誇り輝く〝とちぎ〟づくり」を重点テーマとし、これまで以上に広い視野と新たな発想に立ち、県民協働による取組を積極的に進めて参る考えであります。

私は、県民の皆様が安心して生活でき、誇りと自信を持つことができる元気で活力ある〝とちぎ〟の創造に向けて、県民の皆様と手を携え、最大限の努力を傾注して参りたいと考えておりますので、より一層の御理解と御支援をお願い申し上げます。

年の始めに当たり、私の所信を申し上げますとともに、本年が皆様にとって素晴らしい年となりますことをお祈り申し上げまして、新年のごあいさつといたします。

謹賀新年
佐野商工会議所 役員・議員一同

会頭	亀田好二	議員	加藤幹章
副会頭	島田嘉内	〃	阿部弘志
〃	平岩壮夫	〃	椎名竹一
〃	落合喜行	〃	山﨑金成
〃	矢島堅司	〃	木村清武
専務理事	田村浩史	〃	唐澤重信
常議員	笠原泰	〃	松本静夫
〃	篠﨑良三	〃	石倉孝夫
〃	蓼沼恒男	〃	天海聖三
〃	岡村誠容	〃	吉澤浅一
〃	篠﨑勝宏	〃	横井孝
〃	篠﨑博司	〃	早川一彦
〃	柳澤隼人	〃	亀田宏文
〃	増田宣二	〃	井川克彦
〃	三井福次郎	〃	兵藤勇
〃	小林秀明	〃	菊澤洋之
〃	栗田重雄	〃	田村初男
〃	太田哲夫	〃	蛭川寿彦
〃	田澤眞人	〃	筒井雅之
〃	上岡一雄	〃	白澤幸治
〃	磯野信次郎	〃	二渡孝夫
〃	蓼沼正道	〃	吉川良雄
〃	石川悦子	〃	三好仁
〃	土屋善雄	〃	恩田勉
〃	水戸部基	〃	大川勇
〃	柳橋公明	〃	桑名卓夫
〃	原昭史	〃	宮下友治
〃	福田紳一	〃	亀山覚
〃	亀田康弘	〃	廣田章樹
〃	藤波一博	〃	菊池宏行
〃	金子重雄	〃	山中明
〃	小川洋一	〃	大沢康祐
監事	嶋田誠一	〃	山下郷志
〃	亀山修一	〃	村松均
〃	茂呂純一	〃	遠藤榮
議員	米田司	〃	尾花榮
〃	安藤有一	〃	野中修
〃	亀山滋	〃	川﨑誠
〃	藤沼邦男	〃	高橋雄大
〃	内山隆司	〃	篠﨑孝太郎
〃	神﨑英興		

足利商工会議所

足利商工会議所
会頭 菊地義治

昨年十一月、役員の改選にあたり、議員各位のご推挙を戴き、足利商工会議所第十代会頭に就任いたしました。私にとりまして、誠に光栄であると同時に、その責任の重大さに身の引き締まる思いを強くし、新年を迎えたところでございます。

六千余の会員の発展と地域経済の振興のため、何をどうすべきか、足利商工会議所に課せられた問題は山積しておりますが、先人達の努力と英知、特に足利発展の原点である友愛義団の精神を受け継ぎ、役員・議員をはじめ全職員が一丸となってその解決にあたるべきと心得ます。

そして、会員に元気と活力を与え、安全・安心が確保され、温もりや賑わい、住民が愛着と誇りを持ち、仕事をし、暮らしたいと思うまちづくり、モノづくりを推進する市民会議所としての使命を果たすべく、新たな挑戦に望みたいと存じております。

桐生商工会議所

桐生商工会議所
会頭 佐藤富三

会議所会員の皆様には明るい新年をお迎えになられたことと心よりお慶び申し上げます。

昨年十一月の議員改選では、引続き会頭職を務めさせていただくことになり、新議員各位の参画と新執行部体制の確立により、会議所活動に新しい風を吹き込んでいきたいと考えております。前年度からの新規事業である「群馬大学工学部との交流会」「近未来研究倶楽部」「会員感謝の集い」は継続して実施し、その成果を次のステップにつなげていきたいと考えております。

さらに、会議所の財政基盤・事務局体制の強化と人材育成など時代に即した課題に挑み、会員のため、産業界のため、地域のために何を為すべきかを突き詰め、両毛地域の産業経済の発展と地域社会のために、情熱を傾けて参ります。

太田商工会議所

太田商工会議所
会頭 正田　寛

両毛地域の会員の皆様に謹んで新年のご祝詞を申し上げます。

昨年の議員改選において、会頭に就任することとなりました。微力ではございますが、両毛地域の健全なる発展に努力してゆく所存です。今後もよろしくお願い申し上げます。

今年は群馬県において全国都市緑化フェアが四月に開催されます。その開催に伴い市民・経済界の念願であった北関東自動車道のインターチェンジが三月に開通することとなりました。

このイベントに合わせ通行できることは、観光客の増加に大きな効果をもたらすものと歓迎しております。そして、この事業により新たな観光スポットの創出と高速道路の完成は、太田市のみならず両毛地域の経済発展に寄与するものと確信しております。

館林商工会議所

館林商工会議所
会頭 河本榮一

新年明けましておめでとうございます。

昨年のわが国経済は、バブル崩壊後のデフレスパイラルを脱し穏やかな景気回復の中、大手企業の高収益や完全失業率が4%を切るなど明るい兆しもある一方、企業間・地域間格差が拡大し、さらに原油価格や原材料の高騰は中小企業にとって収益の圧迫と企業債務の実質的な増大をもたらしました。当所管内景況調査でもDIは一進一退を続けております。

このような中、昨年十一月の役員改選では、再度会頭に選任されました、二期目となる会頭職を心新たに会議所運営にあたらせていただく所存であります。

本年は、新しい委員会構成のもと、厳しい経済環境と未曾有の難局を乗り切り地域経済の再生にチャレンジして参りたいと存じます。